

■ ブランド野菜新人学ぶ ～JA収穫祭で成果披露～

当JAは9月18日、今春入組した新人職員を対象にブランド野菜「TOM-VEGE(トム・ベジ)」の勉強会を開きました。新人職員9人はブランド野菜確立までの経緯や土づくり、野菜の効能について学習したほか、野菜の食べ比べで「TOM-VEGE」のおいしさを確認しました。

新人職員は「食べ比べるとえぐみの少なさがよくわかる」「JA収穫祭で多くの人においしさを伝えたい」と口をそろえていました。



▲「TOM-VEGE」野菜の試食をする新人職員

生産拡大 所得増大 秋彼岸の団子人気 ～7,000個の販売見込み～

JA産直「十和田やさい館」は9月18～25日にかけて、秋彼岸向けの手作り団子を販売、期間中7,000個を売り上げるほどの人気でした。

団子作りのメンバー5人は初日、早朝4時から作業を開始。ゆでたヨモギを生地に練りこみ、あんこを詰めて一個ずつ丸めて蒸す作業を繰り返しました。団子は、ヨモギと白の2種類で、3個入り420円(税込)、5個入り700円(税込)で販売。「十和田やさい館」は10月4日に閉店しましたが、新しくオープンしたファーマーズ・マーケット「かだあ〜れ」で引き続き販売予定です。



▲彼岸団子を手作りするメンバー

生産拡大 所得増大 中央会職員が農業体験 ～労働力不足の一助に～

JA青森中央会の職員8人が9月上旬、当JA管内のネギ農家宅で、収穫や調整作業を行いました。

同中央会初の試みで、農業現場を知ることのほか、労働力不足の一助を目的に実施。ブランドネギ「ぼけしらず」の収穫から箱詰めまで一連の作業をはじめ経験した経営対策部経営企画課の相馬崇志さん(53)は「農家の皆さんの苦労も実感したが、知識やノウハウの豊富さ、農作物への自信・愛情に感銘を受けた」と話しました。

JA青森中央会は、県内4JAでも同様の研修を行いました。



▲農家から調整作業を教わるJA青森中央会の職員(写真右2人目)

生産拡大 所得増大 小箱出荷が好調 ～前年比1万ケース増～

当JA産夏秋トマトの1 $\frac{1}{2}$ 入(3～8玉)小箱出荷が好調です。8月出荷は1カ月間で約38,443ケースと前年より10,000ケース増え、取引先の青果市場も3社から4社に拡大しました。今年度は、おいしさとブランドを強調したデザインに小箱を一新し、トマト産地を前面にアピールしました。

取引先の一つ、東京荏原青果(株)気田卓司部長は「1 $\frac{1}{2}$ 小箱は一般的に量販店の定番アイテムで、手ごろな量と価格で好まれている」と話していました。



▲出荷好調の1 $\frac{1}{2}$ 入り小箱

生産拡大 所得増大 ブランド 「TOM-VEGE(トム・ベジ)」の おいしさPR ～バイヤーに売り込み～

当JAは9月12日、イトーヨーカドー青森店で県産農林水産物をPRする「青森県フェア」に参加しました。バイヤーや買い物客に、当JAブランド「十和田おいらせみネラル野菜(TOM-VEGE)」のおいしさ、品質の高さを伝えました。

参加した小向豊常務理事はブランド野菜の特徴として「土壌診断を必ず実施し、土の栄養バランスを整え、健康な畑で生産している。作物本来の甘み、旨味がもどり、野菜嫌いな子どもでもおいしく食べられる」と強調しました。



▲ブランド野菜「TOM-VEGE」のおいしさをPRする小向常務

生産拡大 所得増大 先進地で剪定技術学ぶ ～果樹振興会先進地研修～

JA果樹振興会は9月4日、青森県産業技術センターりんご研究所と鶴田町のリンゴ園を視察しました。参加農家21人は、樹高を低く抑えた剪定技術や栽植から収穫までの期間が短い「わい化」の栽培方法などを学びました。

鶴田町のリンゴ園では、作業を楽にできる剪定技術の研究や若手生産者への技術指導など、本県リンゴ産業の発展に尽力する成田文一さんの圃場を見学。参加農家は、木の高さを3メートル程度に抑え、ハシゴなどを使わずに作業ができる「開心形」と呼ばれる剪定技術を学びました。

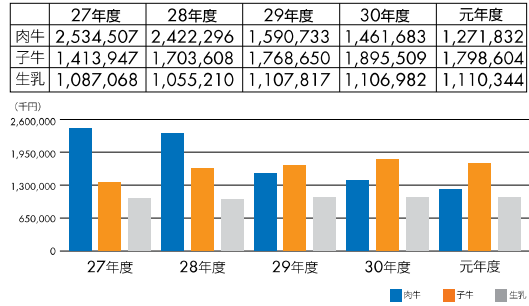


▲リンゴ園を視察する参加農家

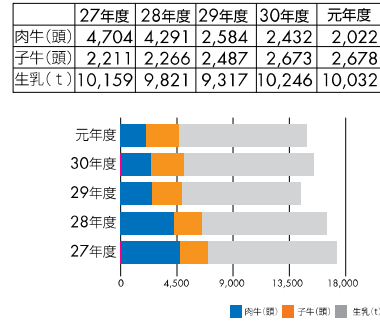
組合員組織とは・・・生産組織・協力組織があります。生産組織は生産・販売事業の根幹を担う組織です。協力組織はJAを核とする社会貢献活動を実践している組織です。

年間取扱高の推移

(単位:千円)



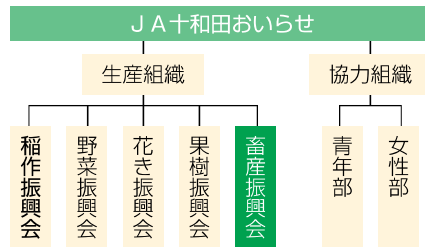
年間取扱量の推移



振興会の主な活動 高品質生産を目指して・・・

畜産振興会 部会員数266人

- 肥育牛部会長 気田 重由
- 繁殖牛部会 十和田市黒毛和種改良組合長 斗沢 清
むつ地方和牛改良組合長 五十嵐 一義
- 酪農部会 十和田支部長 外山 康仁
横浜町支部長 斗米 晃二
むつ支部長 山本 雄二



牛の採血に基づく、肉質アップに向けた勉強会



飼養管理技術のアップに向けた子牛管理品評会



主に自家飼料で育てた安全・安心な生乳を出荷



ブランド和牛 「あもり十和田湖和牛」は美しい霜降りで、軟らかい肉質が自慢



優良雌牛の県外からの導入



畜産後継者の会勉強会



協同のチカラで

組合員組織代表に聞く

Vol.3 畜産振興会



畜産振興会会長(2020年～)

斗沢 清さん(72) 十和田市切田

家族構成=妻、子、孫
経営規模=繁殖牛19頭、水稲1.5ヘクタール
牧草6ヘクタール

牛生産への思い

20代のころから、夫婦共働きをしながら牛飼いをしていました。当初、日本短角種を育て、春になると公共牧場へ放牧し、秋には牛舎へ戻すというのが一般的でした。牛糞を堆肥として、水田に使用するという、循環型農業を多くの農家実践していました。

平成3年の牛肉輸入自由化は、安い輸入牛肉が多く出回るようになり、国内ではそれらに対抗するため、和牛のブランドづくりに取り組む産地が増えました。

当地でも黒毛和種への切り替えが進み、残したかった日本短角種を断腸の想いで手放したことを覚えています。

「和牛の里」「肉用牛の里」づくりへ

十和田市やJAの支援、サポートを受け「県外からの優良雌牛の導入」や優良血統の計画交配によって生まれた雌牛を地元に残す「保留牛事業」、「子牛品評会」など、優れた子牛生産に力を入れています。こうした取り組みにより、子牛の年間平均価格は青森県家畜市場の平均を上回る好成績を残しています。

繁殖牛の保留事業は、優良雌牛の改良によって市場性が高まり、子牛の価格を引き上げる要因にもなります。また、優良雌牛の保留促進により増頭対策にもなり、産地を維持するための一つの方法になっています。

肥育牛部会は、肉質を高めるため牛の採血による「ビタミンコントロールの勉強会」などを定期的に行っています。後継者の会も和牛産地の視察・研修会と飼養技術のレベルアップに向け研鑽を積んでいます。

これからの課題

昨年末から牛肉価格は下がり、さらに新型コロナウイルスによる外食産業の低迷が追い打ちをかけています。

厳しい環境のなか、JAには子牛・肉牛の生産における分析ができる専門的な知識が重要となっています。そのため、早期「育種価」把握のため、県が推奨しているゲノム解析による和牛改良の取り組みを始めました。

畜産業は、牛の生命(いのち)を優先し、時間も拘束される仕事。新規参入となれば素牛の導入や牛舎の建設など、多額な資金が必要となり担い手育成の課題となっています。

これから畜産業は、資本力+販売力が優れた企業の参入が進むと感じています。JAと畜産農家、行政や関係機関が連携し、さらなる和牛の産地振興に取り組んでいきたいです。

総務部

**11/1(日)から
営業時間が変更になります。**

営業時間 **8:30~16:30**

期間 **令和3年3月31日まで**

※詳細については外務チラシでお知らせします。

総務部

お客さまに安心してご利用いただくために定期的に椅子・テーブル等を消毒しております。



理事会だより (第6回:9月29日)

議事

- ▶令和2年度ごぼう仮渡金および前渡金を承認する
仮渡金/入庫1スチールコンテナ当たり
14,000円を上限とする。
前渡金/10a当たり**75,000円を上限とする。**
支払時期/令和2年9月29日(火)より
※市況価格の変動に伴う単価変更については、組合長に一任する。
- ▶令和3年度産地拡大対策事業の実施を承認する
対象作業機械/にんにく植付機及びにんにく収穫機
助成上限金額/1戸当たり1台**1,000,000円(消費税別)**
※問い合わせ先/指導やさい部TEL.0176-23-0339、
または支店・営農担当まで。

報告事項

- ▶内部監査の結果について 一ほか
- ▶「クロスチェック実施要領」および「クロスチェック実施計画」の設定について
- ▶カントリーエレベーター新設工事の入札結果について
- ▶固定資産の取得について 一ほか
大根収穫機 1台(ももし支店)
取得日/令和2年9月23日

監事会だより

(第6:9月29日)
場所:本店2階 常勤監事室

議案第1号

- ▶令和2年度上半期棚卸監査の実施について 一ほか

編集者の 日和日記

「暑さ寒さも彼岸まで」の言い伝えのとおり日ごとに寒さが増えています。管内は稲刈りの真っただ中で、実りの秋を迎えています。おいしい新米に、地元産の農産物を組み合わせる旬の味を楽しみたいです。

さて、当JAのファーマーズ・マーケット「かだあ〜れ」が、オープンしました。コロナ禍で、食の面でも国産志向が高まっているなか、農家が農畜産物を作り続けているよう、買って、食べて応援して欲しいです。T

指導 やさい部

秋の農作業 安全運動展開中!!

県内における農作業事故発生状況

本県では、毎年農作業事故により約10人の方が亡くなっています。

十和田市では、平成27年~令和元年の過去5か年で7件の事故の発生が報告され、秋の収穫時期は乗用型トラクターやコンバイン等の大型機械を使用することから事故のリスクも高くなります。

安全な農作業を行うためにも、慣れた作業こそ油断せず、十分に休憩を取りながら無理のない作業を行うように心がけましょう!

(県内の農作業安全情報は、青森県庁ホームページ「ストップ!農作業事故」で確認することができます。)



超簡単! 時短レシピ

トマトのナムル

材料

- ・トマト
- ・ゴマ油
- ・白ごま
- ・プレミアムニンニクパウダー
- ・塩

作り方

- ① 白ごまをフライパンで乾煎りし、すり鉢でする
※白ごまをするのが面倒な場合は、市販のすりごまを使ってもOK
- ② 乱切りしたトマトにゴマ油をまがし、白ごま、プレミアムニンニクパウダー、塩を加えて混ぜる
レシピ提供...タナカ トウゴさん (野菜ソムリエプロ)

Point!!

最初にごま油でコーティングすることで、水分が出るのを抑えられます。

総務部

人事異動(令和2年10月1日付)

ももし支店 営農経済課

橘 好(旧任:総務課付)

訂正

あぐれっしゅ9月号の記載内容に誤りがございました。お詫びして訂正致します。

<訂正箇所>

P9 第52回東通村畜産共進会 成績
(誤)子牛の部...1等賞/寺澤 和廣
(正)子牛の部...1等賞/寺道 和廣

経済部

J A食材キャンペーンの当選者決まる!

「令和2年度 食材宅配全国統一ふれ愛キャンペーン(応募期間5~7月末)」の抽選会が9月9日、JA本店で行われ、応募総数90通の中から抽選で8名の方に次の商品が当たりました。

A賞...国産シャインマスカット2房

(5千円相当)...4名

B賞...エコープ賞品 リキゴールド2000 100m×10本...4名

当選者の発表は、賞品の発送をもって
かえさせていただきます。(9月末発送済み)



J A食材宅配の3つの利点

- ・毎日の買い物、調理から解放される
- ・家族構成で選べるコース内容で、計画的に購入して家計費の節約に
- ・バラエティに富んだメニューで食が楽しくなる
新鮮・安全・良質な食事で健康な毎日を送りたい



抽選する小向豊常務

J A食材宅配に関するお問い合わせは、経済部(電話0176-23-0314)、各支店購買窓口でお尋ねください。

子会社 通信

㈱エコー/車検整備センター

主な事業内容 生産資材の卸、燃料事業、農機具・自動車販売・修理
福祉事業、夏会・会食事業 など

◎中古車販売はじめました!

お客さまの希望に合うお車を、全国のネットワーク10万台の中から、軽トラックや乗用車はもちろん、2tダンブやハイブリット車もお探します。当社のアフターサービスで、安心して購入いただけます。お気軽にご相談ください!

お問い合わせ先...担当: 蛸名070-2016-2441
㈱エコー 車検・農機センター 電話:0176-25-2670

- ローン・クレジットでの購入もOKです。
- 整備・板金・塗装もお任せください。

JAグループの子会社は、JAが100%出資し、専門的業務を行っています。

米 穀 畜産部

9月 県家畜市場子牛販売成績(黒毛和種) / 開催日: 令和2年9月11日

【当JA管内】

種雄牛	販売金額			雌			去勢		
	上場頭数	高値	平均	上場頭数	高値	平均	上場頭数	高値	平均
第1花園	14	687	529	10	875	697			
福之姫	5	704	612	6	879	745			
美津照重	3	536	502	6	905	656			
美国桜	2	525	521	7	683	568			
春待白清	3	573	514	6	745	574			
計	27			35					

【地区別】

地区	販売金額			雌			去勢		
	頭数	平均価格(千円)	平均体重(kg)	平均日齢(日)	頭数	平均価格(千円)	平均体重(kg)	平均日齢(日)	
十和田地区	40	572	289	311	61	653	329	308	
十和田湖地区	12	584	313	307	14	592	324	308	
むつ地区	16	520	299	323	13	716	341	309	
青森県全体	168	547	293	311	279	637	329	304	

青森県全体については青森県家畜市場データ参照 ※販売金額は税込価格。

重要なお知らせ

上場牛のワクチン接種形式が変わります。令和2年4月1日より上場する黒毛和種子牛は、「F5種混合生ワクチンを2回、牛ヘモフィルスワクチンを2回接種しなければならない。」と変更になりました。